

6月5日（土）

ある会社の安全祈願を行いました。けがや病気が多発しているとのこと。棚がたおれてきたとか、ガンで亡くなった人がいるとか、聞かされました。そう話してくれた人もガンが見つかり、今、治療中なんだとか。そんなこんなで早急に神棚をつくり、榊を立てて、毎日、お供えをしているとも言っていました。

そこで思ったのですが、なんで神棚（神様）なのでしょう。仏さまでも御守護してもらえるはずなのになあと。商店や工場には、神棚がつくられています。仏さまを祀っているところを私は見たことがありません。一般的には、お宮参り、七五三、結婚式、初詣、合格祈願などなど、普段の生活には神様の守護を願い、最後のときだけ仏さまに頼る、というみたいですね。

信心深い？のは結構なことです。大安の日でないとだめだという人もいるでしょう。が、大安や仏滅というのは中国で始まったものと言われ、神仏には全く関係のないものです。ほぼ機械的に並べられているものであり、大安に命を落とす人もいれば、仏滅に生まれてくる赤ちゃんもいます。

話をもどしますが、安全祈願を行ったからもう大丈夫、ということはありません。お祭りをすることで気分一新し、これまで適当だった安全管理を意識して行うようにするきっかけづくりとすることが重要です。